

**NCNL**

No. 27  
2010.7

# 図書館だより

～本から学びを得て、深いケアへ～

## Contents ページ

心に残る一冊「みんな好きで一緒になった」	
エッセイ	2
「私の図書館利用法」	
書評	3
「がん 患者を生きる」	
データベース紹介	4
メディカルオンライン	
快適住まい環境研究	5
会からの寄贈について	
地域資料コーナー	6
～館内施設案内～	
寄贈図書案内	6
人事往来	6

## 心に残る一冊『みんな好きで一緒になった』

まず、自己紹介をしましょう。私は今年4月から大学教員になりました。今までは、がん看護専門看護師として看護実践、看護管理者として部署を任せ、がん看護専門看護師の教育など幅広く活動しておりました。そして、どんな人かと言いますと明るく元気で人気が大好きな人です。専門看護師に必要な本について真面目な執筆をしようかとも思いましたが、今回は、私が読んで心に残った『みんな好きで一緒になった』を紹介しましょう。

この本との出会いは、2008年に以前勤務（群馬大学）していた病院の新人看護師研修の講師に招いた小南奈美子さんが書いた本でした。通称Namiさんと呼ばれています。Namiさんは名古屋生まれ、米国で医学を学び内科・腎臓科専門医として活躍され臨床と教育に21年間携わり、その後、日本で人間教育に関わっていました。私も18年前にNamiさんの研修に参加していました。新人看護師に「コミュニケーション」の講義・演習をお願いしたときでした。

私は、がん看護の専門書や文献を読むことはありますが、ゆっくりと本を読む時間は有りませんでした。この本の表紙を見たとき「出会ったばかりのころ、わたしたちは幸せに満ち溢れていました。それでもあなたは離婚という選択を決断できますか？」と書かれています。

そして「夫婦の絆」を蘇らせる一冊と書かれていました。その時、私には必要のない本だと思いました。でも、講師として呼んだのだから本を買う義務があると思い購入しました。

読まずに棚に仕舞っておくこともできましたが、買ったのだから少しは読んでみようかとページを開き、まえがきをパッと開いた瞬間からひきつけられました。時間の立つことを忘れて、どんどん読み進んでしまう。この書から溢れてくる人としての愛情や温かさを体験することができました。結婚に関することだけの本と思っていたのですが、全く違う性質の本でした。本を読んだあと、実効性に富んだ、人間関係改善の手引き書として役立っている。また、自分育て、部下育て、上司育てにも効果的な実践段階を手に入れることができる優しい知恵袋としても活躍してくれます。誰にでも応用または活用できる本です。

本を読み進んでいくうちに、まあなんとなくですが、一度は結婚したくなりました。独身者に贈る結婚指南書決定版でもあると思います。この書に接する人は、幸せになれる効果の高い治療薬であり、今、概に幸せな人には安価な予防ワクチンであるとも言えます。

(いしだ かずこ)



成人看護学  
教授 石田和子



書名：みんな好きで一緒になった  
著者名：小南奈美子  
出版者：ポプラ社  
出版年：2009  
請求記号：367.3-Ko64  
(棚19左 (2階))

## 連載企画1 エッセイ “私の図書館利用法”

## 図書館との関わり

1年

**初**めて看護大の図書館に入ったとき、専門書の多さや移動式書架があること、パソコンが使える環境であることに驚きました。また、文献検索のコーナーなどもあり、本当に利用しやすい図書館だと思いました。

授業を受けて行くうちに課題が出されていきます。教科書だけではとてもこなせません。そこで頼りになるのが、この図書館です。最初に出された課題は形態機能学Ⅱで、細胞や人体の名称を記入したり、色分けをするものでした。まだどの辺りに何の本があるのか分からなかったため、さっそく文献検索を行い、目当ての本を見つけました。その本は解剖学の欄にあり、英語で書かれたものや2巻つづきになっているものなど、人体に関する数十冊の本のうちの1冊でした。課題が出されるとみんな同じような時期に借りるため、数十冊もあるのはありがたいことです。

そして、課題だけではなく基礎ゼミの資料を集めることにも図書館を利用させてもらっています。私の所属する基礎ゼミでは、関心のある疾患や病気について1つテーマを決め、各自でそのテーマを深く調べて行きます。この作業では複数の専門的な文献

が必要となります。看護大の図書館には、それに十分対応できる専門書がそろっているため、作業がはかどります。資料を集めているうちに気付いたのですが、分かりやすく書かれた看護師・看護学生向けの雑誌が多数あり、難しい専門書に取りかかる前に読んでおくと理解しやすいです。

また、ちょっとした空き時間に読書をしたいときは、文庫本を借りたりしています。2週間借りることができるため、ゆっくりと楽しめます。時間の無い日が続いてなかなか読めなくても、予約がなければ延長して借りなおすこともでき、これも図書館の魅力の1つだと思います。これを利用して、学生のうちにたくさん本を読んでおきたいです。

これから4年間、図書館は重要な存在となりそうです。

( )



## 図書館の利用について

3年編入

**私**は専門学校時代、本を読む習慣がほとんどありませんでした。大学にはたくさんの種類の本があり環境も整っているため、図書館を有効に活用していきたいと思っています。

特に大学では、専門学校では学べなかった地域看護についての知識や技術を身につけたいと思っています。そのため、保健師の活動や患者・家族へのケアなど地域看護に関する本をたくさん読みたいと考えています。これから授業で地域看護を学んでいく中で、自分が興味や関心を持ったことは積極的に図書館で調べるなど、知識を深めていきたいです。

現在、授業でレポートの課題が多く、文献を探すために図書館を利用しています。4年生で看護研究するときに文献検索がちゃんとできるように、今のうちから文献を上手く検索できるような技術身につけたいと考えています。そのためには、昼休みに図書館で行っている文献検索の講習会に積極的に参加していきたいです。基礎ゼミナールでも文献の検索方法を学習しているので、しっかりと学んでいき

たいです。

また、図書館にはたくさんの種類の医療系・看護系の雑誌があります。医療や看護は日々進歩しており、医療の変化や現在問題になっていることなど、新しい情報を知ることがとても大切なことだと思います。そのため、医療系・看護系の雑誌や研究などにも興味を持ち、読んでいきたいと考えています。

さらに、図書館は学習できる静かな環境も整っているため、学習をするにも最適な場所だと思います。課題やテスト勉強など集中して勉強したい時にも図書館を活用していきたいです。

最後にたくさん本や研究を読むことは、自分の看護感を高めることにもつながると思うので、積極的に図書館を利用していきたいです。

( )



## 連載企画2 書評

## 『がん 患者を生きる』

朝日新聞医療グループ編・朝日新聞社・2007年

基礎看護学 助手 内藤 みほ

私も学生時代は、授業課題の参考文献や卒業研究の文献検索のために図書館を利用したり、国家試験のための勉強の場として、よく図書館に通っていました。ただ、集中力が短いため、すぐに課題や国試という現実から逃げたくなっていました。そんなとき、看護師の体験記や患者さんの闘病記を読むことで、改めて看護師として病と闘う人々の力になりたいという夢を奮い立たせていました。

ここで紹介する本は、医療者からの視線ではなく、実際にがんと闘っている（いた）方、その家族を取材した朝日新聞社の朝刊連載をまとめた一冊です。

例えば第一章では、元フィギュアスケート選手の井上怜奈さんが登場します。某保険会社の「彼女のファン1号は父だった。20歳の時その父が亡くなった。翌年今度は彼女にがんが見つかる。・・・そんな彼女に氷の上のプロポーズが待っていた」というCMをご覧になったことがあると思います。彼女はCMの通り、留学先のアメリカで肺がんの告知を受け、スケートを続けるために異国で1人がんと闘った経験を持っています。最愛の父親を肺がんで亡くされ、悲しみが癒える間もなく自ら同じ病に冒されていることを知りません。周囲への気遣い、抗がん剤の副作用、不安・いらだち、スケートという夢、色々なことが彼女を悩ませていましたが、「病気を経験したからこそ学べたこともたくさんある」とも語っています。190ページほどの中に15人の方々の闘病の様子が寄せられています。その内容は多岐にわたり、過酷な闘病生活や現実的な問題、様々な葛藤の様子など闘病生活で感じた喜怒哀楽や紆余曲折が綴られています。一人一人のページは少ないので、全てにおいて詳しく書かれているわけではありません。だからこそ、その時の患者さんや家族の気持ちを自分なりに読み取り、考え、理解しようとし、またどのように対応していくべきなのか、看護師として何ができるかを考えるきっかけになるように思います。

私は、がん専門病院に勤務していたこともあり、この本に紹介されている方々のような患者さんやご家族に日々接していました。病と闘う患者さんやご家族の前に、未熟な私は何ができるのだろう。どんなことが患者さんと家族の支えになるのだろう。そんなことを毎日考えながら接してい

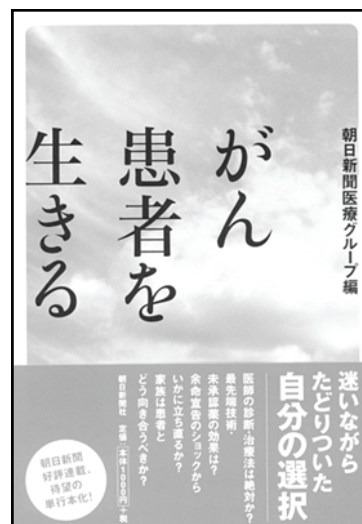
ました。乳がんや婦人科がんと闘っている病棟でしたので、小さい子どもを抱えて闘病している若いお母さんも少なくはありませんでした。“小さなこの子たちを残して逝けない” “もっと生きたい” “たとえ可能性がわずかでもあるのならこの治療に賭けてみたい” そんな藁にもすがる思いで患者さんやご家族は訴えてきます。最近では、かなり高度で専門的な情報も論文や書籍、インターネッ

トなどで自ら調べて医師に相談する方も増えてきています（情報量の多さに不安を強めてしまう方がいるのも事実ですが…）。

この本には、患者さんやご家族のリアルな声が寄せられており、実在の病院名や主治医の氏名までも公表されている章もあります。当然良い話ばかりではありません。“こうしてもらえれば良かった” “一言でも声をかけてくれれば良かった” という医療者への不満も寄せられています。自分はそんな対応や声かけをしていなかったか、そんなつもりはなくても自分の言動が患者さんや家族を傷つけていなかったか、読んでいてどきっとさせられました。

闘病記や体験記なども図書館が増えてきています。その内容は、医療の現場で看護師として働く私たちでさえ想像しがたい経験をされている方々が、これからの医学進歩のため、同じ悩みを抱える人々のため、そして人生を生き抜いた証として、勇気を持って、その苦しい体験や胸の内を声にしてくださっているものです。是非学生の皆さんには、その想いを真摯に受けとめ、その中からも学びを得て、さらに深いケアのできる医療従事者になって欲しいと思います。

(ないとう みほ)



請求記号

NO49.1-494.5

(棚1左 (1階))



## データベース紹介

## メディカルオンライン

http://www.meteo-intergate.com/index.html

平成22年度より、メディカルオンラインをパッケージプラン（メディカルオンラインライブラリー）で導入いたしました。

“メディカルオンライン”とは、学会誌・学術専門誌を統合し、文献検索、アブストラクト閲覧、文献を全文提供する会員制の医学・医療の総合サイトです。

図書館カウンターで申し込めば、その場で無料で雑誌論文を入手できます。

パッケージプランとは、入手できる論文数に制限があることです。以下の利用方法にご留意の上、カウンターで申し込んでください。

## 1. 文献検索方法

図書館ホームページのトップページにリンクがあります。クリックすると、学内専用ページが開き、メディカルオンライン（青）（以下、MO）とメディカルオンラインライブラリー（緑）（以下、MOL）のアイコンが表示されます。どちらも同じように検索できますが、MOLではアブストラクトも表示できます。

MOは学外からでも検索できますが、MOLは学内専用で、ID・パスワードの入力が必要です。ID・パスワードについては、学内に設置してあるパソコンから図書館ホームページにアクセスして、ご確認ください。

“キーワード検索”ではアブストラクトが検索できるほか、ジャーナル名・巻号、ページから探す“バックナンバー”検索、「医学総合」「医療技術」「看護学」などの分野からジャーナルを探す“分野別”検索、学会・出版社から探す“配信学会・出版社一覧”で探すことができます。

## 2. 医学中央雑誌webと連携

医中誌webの検索結果から、MOLで本文が入手できるかを知ることができます。



医中誌webの検索結果に「メディカルオンラインPDFサービス」または「メディカルオンラインFAXサービス」と書かれたアイコンが表示されると入手が可能な文献ということになります。

これらのアイコンがありましたら、所定の申込書に記入のうえ、図書館カウンターに申し込んでください。入手文献数に制限があるため、利用者が直接ダウンロード等ができませんが、図書館員が代わりに印刷します。

月～金の午後6時15分までに申込むと、その場で印刷します。それ以降および土曜日の申込分については、翌開館日に印刷します。印刷代は無料です。

## 3. 注意点

パッケージプランにより、入手可能文献数に制限があります。そのため、以下のいずれかの場合には、印刷しません。申込の前によくご確認ください。

- ① 本学で所蔵している雑誌
  - ② インターネットで無料公開している雑誌  
(MOの中には無料で公開されているタイトルも含まれています)
- なお、学外者は受付けておりません。ご了承ください。

The screenshot shows the Medical\*Online website interface. At the top, there are navigation tabs for 'キーワード検索' (Keyword Search), 'バックナンバー' (Back Number), '分野別' (By Field), '配信学会・出版社一覧' (List of Publishing Societies/Publishers), 'ガイドライン' (Guidelines), and '医学書を購入' (Purchase Medical Books). The main content area features a large banner with the text '必要な文献を論文単位で即座に入手! メディカルオンライン Medical\*Online'. Below the banner, there are several sections: 'インフォメーション' (Information) with a list of recent updates, '新着ジャーナル情報' (New Journal Information), 'バックナンバー追加更新情報' (Back Number Addition Update Information), and '最新ニュース' (Latest News). The bottom of the page includes a 'Medical\*Online' logo, a copyright notice for 2005, and a 'Presented by Meteo Inc.' statement.

## 快適住まい環境研究会からの寄贈について

5月24日、快適住まい環境研究会代表で3月に本学を退官された杉田収特任教授と、研究会幹事の坂本睦子様が来館され、住環境と介護に関する書籍を24冊寄贈いただきました。ここに、改めて感謝申し上げます。研究会の活動内容と、本学に寄贈いただいた経緯を、杉田特任教授に伺いました。



(左が杉田特任教授、右が坂本様、手前が寄贈図

世界で例のない速さで進行する日本の超高齢化の対応策として介護保険制度が準備されていた時期の1996年に「住ま研」が新潟県立看護短期大学の教員有志により設立されました。設立目的は在宅介護を支える住環境整備でした。フォーラムや講演会を開催し、施設見学会で知識と経験を積みながら、実際の住宅相談に対応しました。住ま研に所属した会員は、上越市・新潟市を主に120名程度、年会費2,000円の会費制になってからは個人会員60~70名、団体会員1団体でした。

住宅相談の中に、中学校で頸椎骨折の大怪我をされたAさんの住宅新築相談がありました。当時の住ま研会員の建築士、理学療法士、看護師・保健師には、このような重症者の住宅設計の経験者はなく、Aさんの入所先の国立伊東重度障害者センター（静岡）に関係者6人が出かけて、Aさんの車椅子での移動、食事、入浴、排泄などの状況を計測調査しました。そこのセンターでの最後の打ち合わせ時に、1人のセンター職員が「24時間介護を必要とするAさんは上越市では生きていけないでしょう」と言われたのです。その言葉を胸に、帰る電車のなかで私たちはAさんが上越で生きられる住宅を真剣に考え、時間を忘れて高田駅に着くまで議論しました。その後さらに新潟市在住の同じような大怪我をされた方々の住宅を大勢で見学させて頂くなどの体

験を積んで、Aさん宅を設計建設しました。建築から5年、Aさんは多くの支えを得ながら上越市で見事に生きておられます。平成16年に化学物質過敏症（CS）発症児童の相談が入りました。小学校で通常使われる化学物質により、4名の児童が身体症状がでて登校できない状況でした。その相談を機会に「住ま研」はこれにも取り組むようになりました。CSは「CSを知ること」が大事と考えられましたので、上越市立小学校児童の保護者全員（12,045名）に対するアンケート調査を実施しました。

住ま研には住ま研学生部がありました。住ま研が設立されて間もなく、住ま研の活動に興味を持った学生の有志が住ま研学生部（サークル）を立ち上げました。目隠しして車椅子に乗り、高田の街のバリアを調べる活動が最初でした。学祭では演劇「住ま研・愛の劇場」が何年間も続けて上演されました。関谷先生と私が無理やり飛び入り出演させられたこともありました。学生の活動は何枚かのCD版と小冊子に残されています。

このような住ま研でしたが平成22年3月31日で解散しました。住ま研学生部（サークル）も解散しました。多職種が連携して活動してきた住ま研の解散を惜しむ声もありましたが、住環境問題に対応できる人材が育てられ、ネットワークも形成されて目的がほぼ達成されたと思います。

住ま研の解散にあたり会費の残余が生じたので、これまでの活動を踏まえ、もっとも有効な生きた使い方は何かを住ま研幹事会で時間をかけて議論しました。その結果看護大図書館に所蔵されていない最近の図書で、住宅や住環境、食、介護に関連したものが選ばれました。このたび看護大学に寄贈しました書籍は「在宅療養のための住環境整備」「高齢者の住環境」「電磁波・化学物質過敏症」「住まいと病気」「食品安全ハンドブック」「高齢社会に生きる」等の24冊です。住環境と介護、環境と健康などを考える際にぜひこれらの図書を活用して頂きたいと思います。

(すぎた おさむ)



## 地域資料コーナー ～館内施設案内～



当館では保健医療福祉の専門書以外にも様々な資料を収集し、特設コーナーを作っています。その一つが新潟県に関する資料を収集している“地域資料コーナー”です。

1階の窓側の一番奥の壁にあるこのコーナーには、本学の使命である「地域文化に根ざした看護科学の考究」を果たすために必要な、新潟県の保健医療福祉関係資料が揃っています。また、1年次の後期には「ふれあい実習」があり、地域社会のあり方や、地域医療上の様々な問題点について考えることとなりますが、その際に参考となる資料があります。ぜひご活用ください。

そのほか、新潟県福祉保健部（『新潟県看護関係者の現状』『新任期における保健師育成の手引』

等）や新潟県看護協会（『親への性教育マニュアル』等）など、地域関係機関が発行する非売品資料も数多く揃えています。

## 寄贈図書案内 平成21年11月～平成22年5月

下記の著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。（敬称略）

	寄贈者	書名	出版年	請求記号
教員	藤川あや	介護保険制度の適正な運営・周知に寄与する調査研究事業 在宅での看取りを可能にする訪問看護ステーションの機能に関する研究報告書	2010	N820-F58
学外	大竹芳夫	「の(だ)」に対応する英語の構文	2009	835.1-O82
	小林英起子 (訳者)	心気症の男	2009	942.6-Q8

## 人事往来～図書館職員の退職・新任あいさつ～

## 前・非常勤職員 加藤由紀

5年間お仕事させていただき、誠にありがとうございました。勉強不足で至らない点もあったと思います。どうもすみませんでした。看護・医療という難しい勉強を続けることは大変だと思いますが、友達や先輩とコミュニケーションを取って頑張れば乗り切れると思います。これからは学生・教職員の皆様のご健康とご発展をお祈りしています。

## 新・開館延長嘱託員

## 藤牧奈留美（平成21年8月～）

昨年の8月から図書館の夜間および土曜日の嘱託員としてお世話になっております。1年弱皆様の一生懸命勉強している姿を見てきて、自分自身とても励みになりました。まだまだ至らない部分も多いかと思いますが微力ながら勉強のお手伝いができればと思います。皆様が気持ちよく利用できるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

## 新・非常勤職員 清水志緒理

はじめまして、4月から図書館でお世話になっていきます。大学図書館での勤務も医療系の雑誌や図書を扱うのも初めての経験なので、日々数多くのことを学ばせてもらっています。何かとご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、みなさんに図書館を快く利用していただける様、誠心誠意頑張りたいと思っております。どうぞ、よろしくお祈りいたします。

## 新・開館延長嘱託員 羽深葉子

4月からお世話になっていきます。

初めての図書館業務で戸惑う毎日ですが一日も早く皆様のお役に立てるように頑張ります。

よろしくお祈りいたします。

このほか、昨年度は開館延長職員の平賀道子、篠宮昭夫が退職しました。お世話になりました。

図書館だより 第27号（2010年7月15日発行）

編集：新潟県立看護大学 図書委員会

〒943-0147 上越市新南町240番地

E-mail: tosyo@niigata-cn.ac.jp

発行：新潟県立看護大学図書館

TEL: 025-526-1169

URL: http://lib.niigata-cn.ac.jp/